



2022年度

学生生活実態調査報告書



関西大学学生センター

まえがき

「2022年度学生生活実態調査報告書」を刊行いたしました。

この報告書は、2022年9月から10月にかけて実施した調査を統計的に処理して分析し、その結果を概要やグラフおよび基礎集計表にまとめています。

この調査の目的は本学学生の生活実態を把握することであり、また学生の修学状況、課外活動やボランティア活動の実態、学生の福利厚生に関する基礎資料を作成し、経年的に比較することで、学生の教学面、生活面をサポートするための施策を迅速に立案実施するためには欠かせないものと考えております。

今年度からは、より詳細な調査結果を得られることに期待し、調査テーマを「本学の独自調査（奨学支援を含む学生生活全般）」、「本学の独自調査（課外活動全般）」、「日本私立大学連盟の調査を活用」に改編いたしました。改編初年度の今年度は、「本学の独自調査（奨学支援を含む学生生活全般）」の調査テーマで実施しました。調査では、「学生生活全般（大学生活でのマナー・モラル・トラブル、対人関係、悩み・不安）」、「奨学金」等の学生生活全般に関わる項目を中心に構成しています。さらに、社会情勢や学内および本学を取り巻く環境の変化も考慮しつつ、グラフやコメントを多く掲載いたしました。この結果、より正確に本学の学生像を把握できるものになったと考えております。

2023年3月31日

関西大学 学生センター所長
松村 吉信

調査概要

本学の「学生生活実態調査」は1955年度に始まり、2003年度までは、ほぼ毎年実施してきましたが、2004年度から2008年度までは隔年の実施となっていました。

しかし、学生生活の実態が毎年変化していることから、学生の実態をよりの確に把握するため、2009年度以降は再び毎年実施しています。

今年度からは、現行の調査サイクルである「本学の独自調査」、「特別テーマ」、「日本私立大学連盟の調査を活用」及び各調査項目を見直し、①「本学の独自調査（奨学支援を含む学生生活全般）」、②「本学の独自調査（課外活動全般）」、③「日本私立大学連盟の調査を活用」に改編しました。

本年は、①「本学の独自調査（奨学支援を含む学生生活全般）」を実施しました。この調査は本学学生の実態をより明確に把握できるよう、マナー・モラルや奨学金に特化し実施するものです。

調査期間

2022年9月12日（月）～2022年10月21日（金）

調査方法

インフォメーションシステムにより調査への協力を依頼した。回答方法はMicrosoftの「Forms」から回答する形式をとった。

調査対象

学部学生から無作為で6,000人を抽出

調査項目

次の4項目で構成

- (1) 基本項目
- (2) マナー・モラル等学生生活全般
- (3) 奨学金
- (4) 自由記述

回収率

29.3% (1,760/6,000人)

回収結果

学部生

	在学生数	抽出数	回収数				合計	回収率
			1年	2年	3年	4年		
法 学 部	3,041	660	65	48	46	42	201	30.5%
文 学 部	3,227	717	85	72	49	72	278	38.8%
経 済 学 部	3,090	669	56	49	38	38	181	27.1%
商 学 部	3,057	664	49	47	39	35	170	25.6%
社 会 学 部	3,277	725	77	61	39	34	211	29.1%
政策創造学部	1,455	320	38	18	21	24	101	31.6%
外国語学部	682	153	17	0	17	13	47	30.7%
人間健康学部	1,381	308	24	13	18	24	79	25.6%
総合情報学部	2,185	472	42	44	24	26	136	28.8%
社会安全学部	1,165	252	25	17	16	12	70	27.8%
システム理工学部	2,104	456	37	30	28	38	133	29.2%
環境都市工学部	1,358	296	17	13	15	12	57	19.3%
化学生命工学部	1,410	308	29	20	19	28	96	31.2%
合計	27,432	6,000	561	432	369	398	1,760	29.3%

※注1 在学生数は2022年5月1日現在

その他

- ・調査結果のグラフ及び基礎集計表の数値は、データ集計時、少数第2位を四捨五入している関係上、選択肢の数値を合計しても100（%）とならない場合がある。
- ・学部をキャンパス別に分ける場合は以下のとおりで集計している。

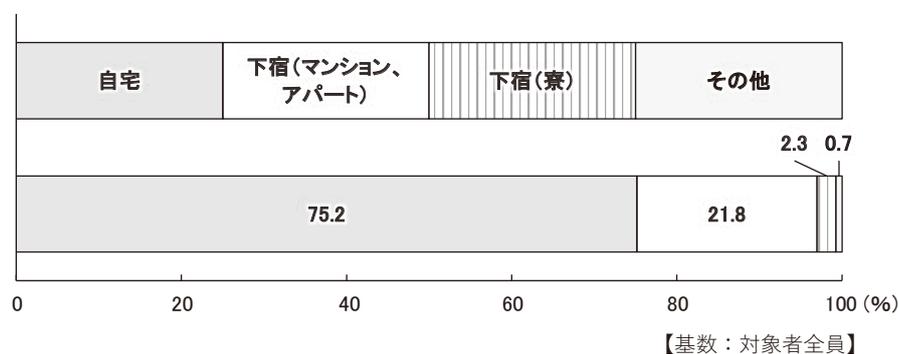
千里山キャンパス	法学部
	文学部
	経済学部
	商学部
	社会学部
	政策創造学部
	外国語学部
	システム理工学部
	環境都市工学部
	化学生命工学部
高槻キャンパス	総合情報学部
高槻ミュージズキャンパス	社会安全学部
堺キャンパス	人間健康学部

- ・理工系・文系の分類については、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部を理工系とし、その他の学部を文系として集計している。

I 調查結果

居住形態

問3 あなたの住居は、次のうちどれですか。

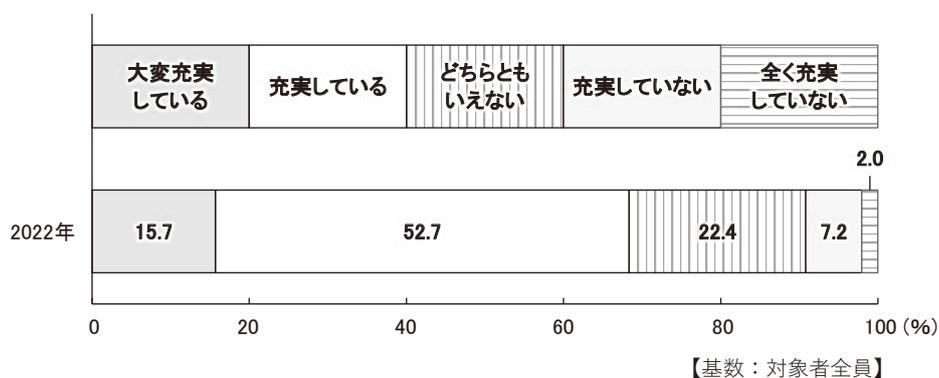


7割以上の学生が自宅から通学している

今回の調査で居住形態を「自宅」と回答した学生の割合は75.2%、「下宿（マンション、アパート）」と回答した学生の割合は21.8%、「下宿（寮）」と回答した学生の割合は2.3%となっており、自宅から通学する学生の割合が多いことが読み取れる。しかしながら、居住形態を「自宅」とする学生の割合は、前回調査（2020年度）より4.1ポイント減少しており、自宅から通学する学生の割合は、やや減少していることがわかった。

学生生活の充実度

問4 あなたの学生生活は充実していると思いますか。



「充実している」と回答した学生が7割近く

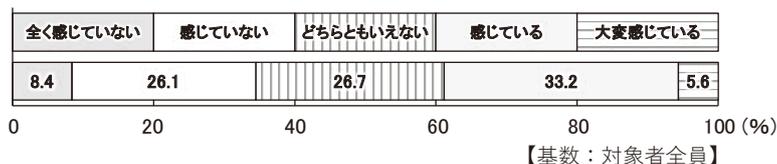
今回の調査において、「大変充実している」と「充実している」の合計値である“充実している群”の割合は68.4%であり、7割近くの学生が充実した学生生活を過ごしていることがわかった。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、対面での活動に大きな制限を受けていた状況が少しずつ改善されていることにより、学生生活の充実度が向上していると推測される。

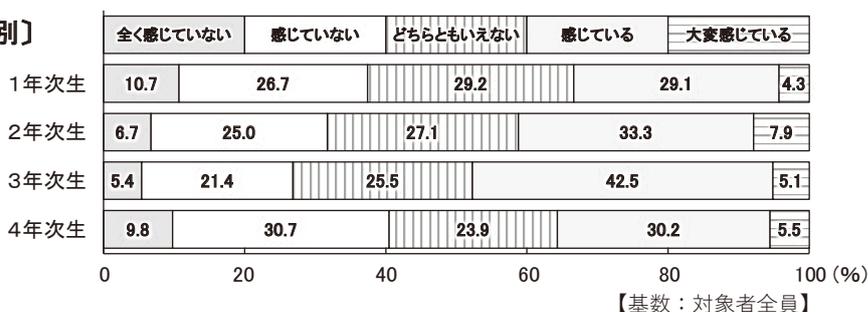
ストレス・不安

問5 日常生活においてストレスや不安を感じていますか。

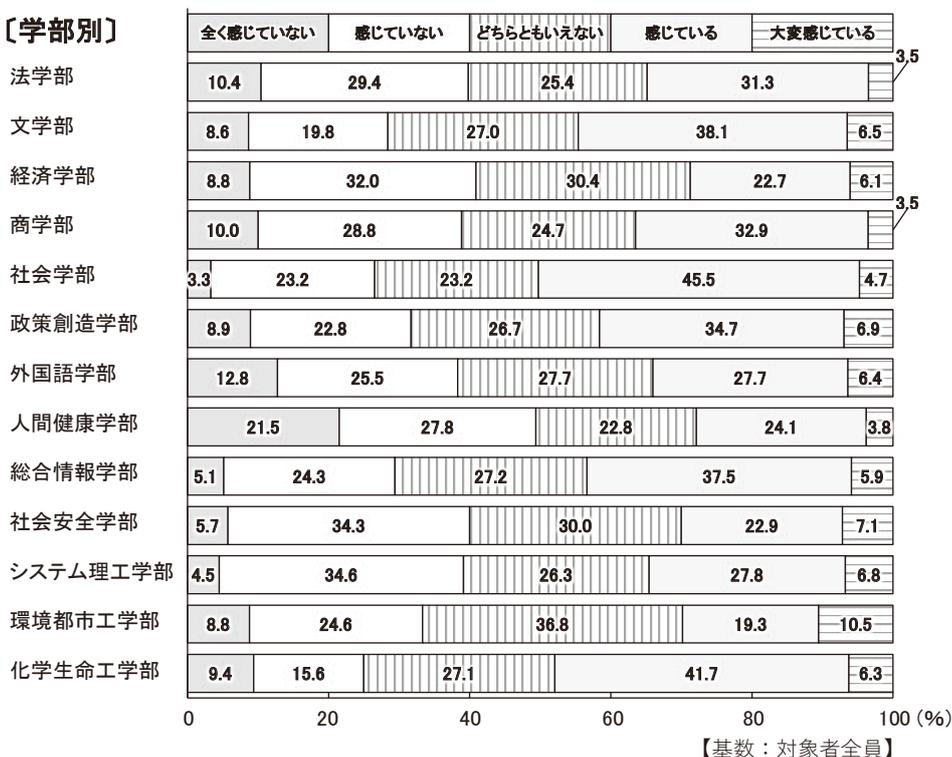
〔全体〕



〔学年別〕



〔学部別〕



ストレスや不安を感じている学生の割合が約4割

日常生活においてストレスや不安を感じているかについて調査したところ、「感じている」、「大変感じている」と回答した学生の割合は38.8%であった。

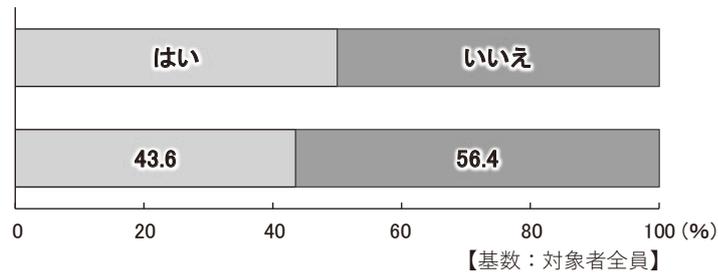
「感じている」、「大変感じている」と回答した学生の割合を学年別でみると、1年次生が33.4%、2年次生が41.2%、3年次生が47.6%、4年次生が35.7%となり、3年次生が最も高い割合となった。3年次生は、就職活動の本格化する年次であることから、就職活動に起因する日常生活におけるストレスや不安が生じていると推察できる。

マナー・モラル等の啓発活動の認知度

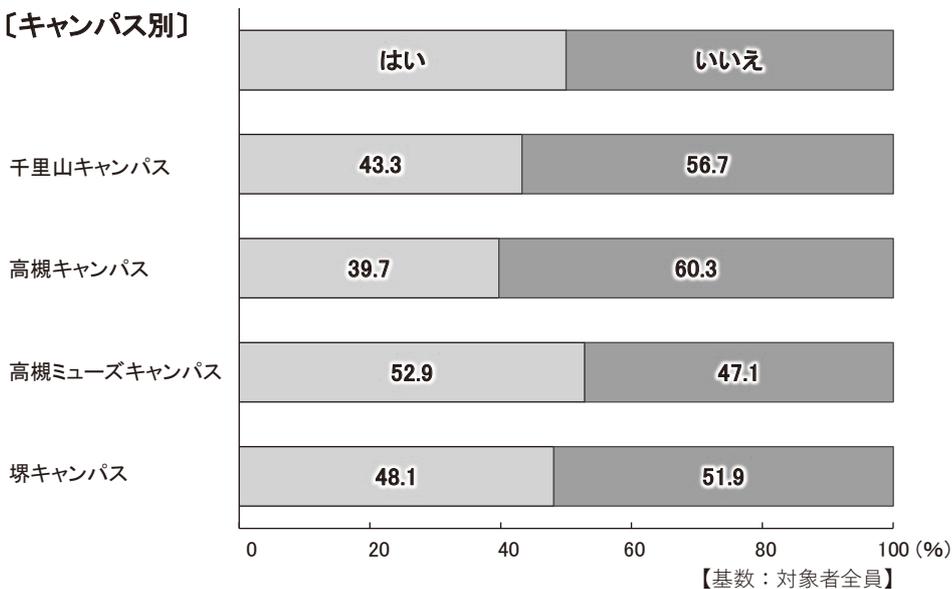
問6

あなたは、学内でマナー・モラル等の啓発が行われていることを知っていますか。

〔全体〕



〔キャンパス別〕



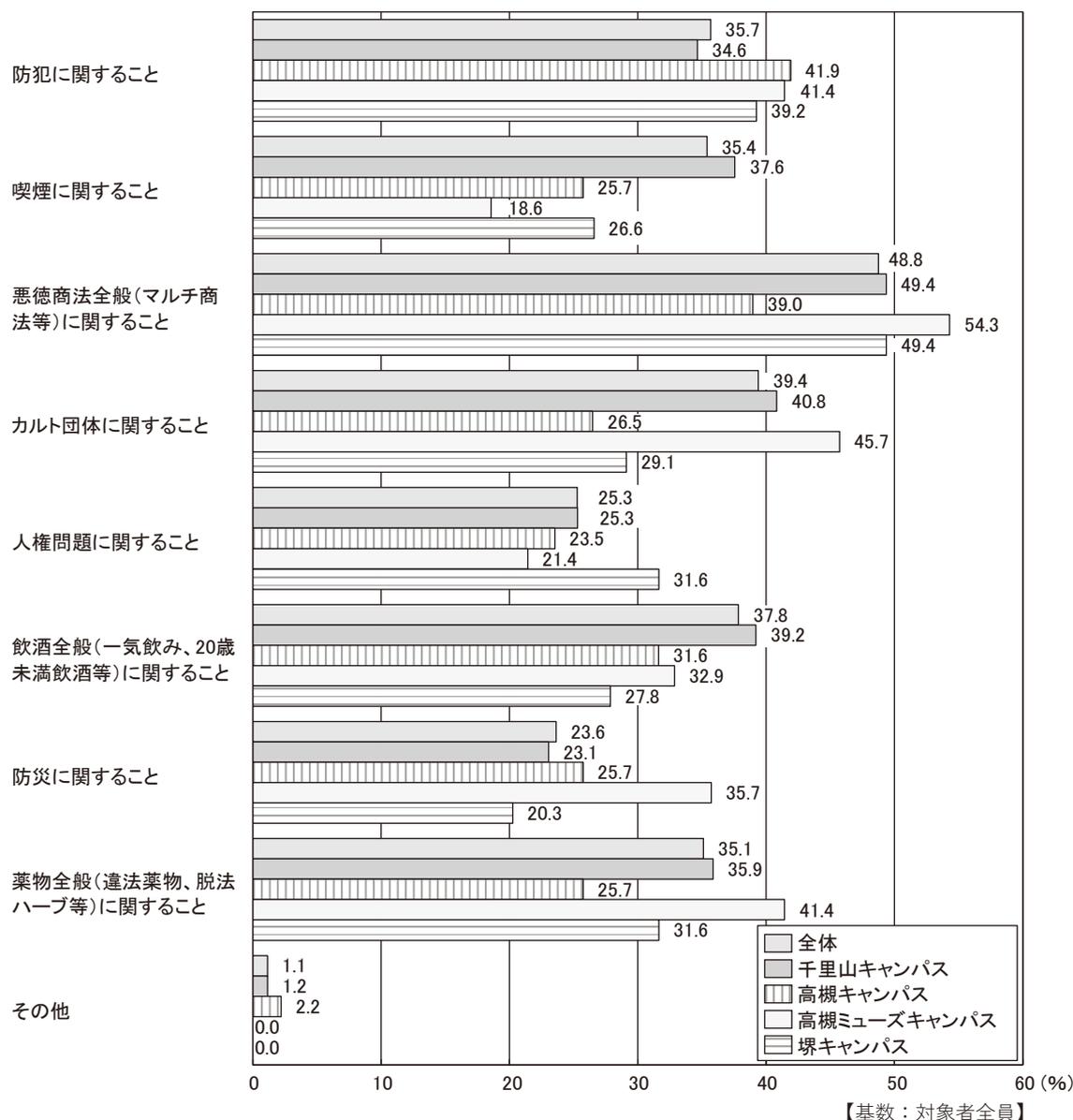
約4割の学生がマナー・モラル等の啓発活動を認知している

学内でのマナー・モラル等の啓発活動に対する認知度について調査したところ、「はい」と回答した学生の割合は43.6%、「いいえ」と回答した学生の割合は56.4%であった。

キャンパス別クロス集計表でみると、「はい」と回答した学生の割合は、高槻ミュージズキャンパスが52.9%と最も高く、次いで、堺キャンパスが48.1%、千里山キャンパスが43.3%、高槻キャンパスが39.7%となり、複数のキャンパスで過半数を下回ったため、大学としてより効果的な啓発内容を検討し、実施していく必要があるだろう。

強化すべき啓発行事

問7 学内で行う各種啓発行事に関して、あなたはどの啓発内容を強化すべきだと思いますか。(複数選択可)



その他（自由記述）

- ・新型コロナウイルス感染症感染予防のための、マスク着用に関する啓発活動
- ・SNSトラブル
- ・電車内マナー
- ・路上でのマナー
- ・ながらスマホ等交通マナー
- ・ハラスメント関係
- ・性被害
- ・税金に関する知識

「悪徳商法全般（マルチ商法等）に関すること」と回答した学生の割合が最多

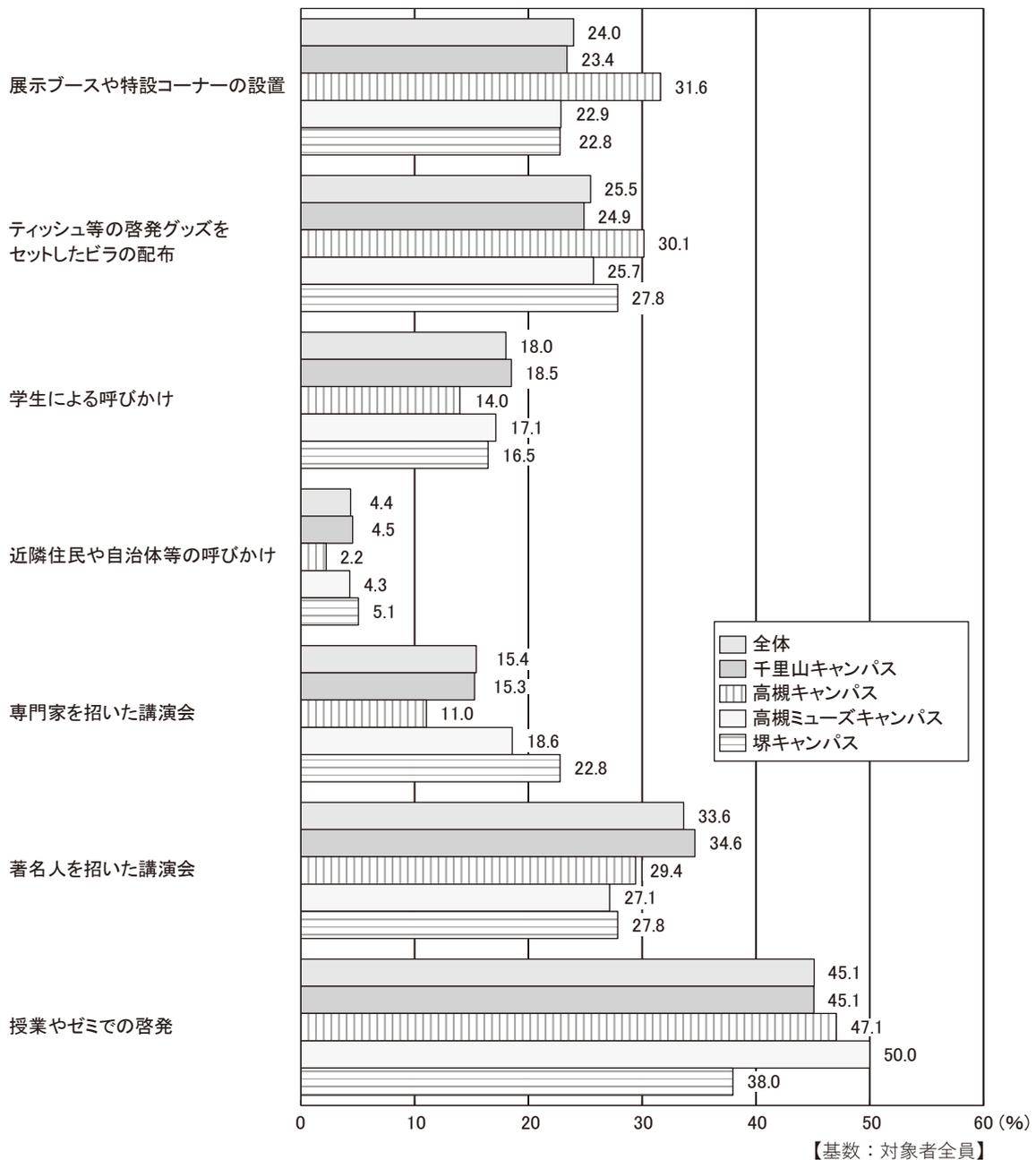
学内において強化すべき啓発内容について調査したところ、「悪徳商法全般（マルチ商法等）に関すること」が48.8%と最も高く、次いで「カルト団体に関すること」が39.4%、「飲酒全般（一気飲み、20歳未満飲酒等）に関すること」が37.8%という結果となった。

キャンパス別クロス集計でみると、千里山キャンパスにおける「喫煙に関すること」の割合が他のキャンパスと比較して高く、千里山キャンパスに所属する学生が喫煙に関するマナー・モラルに懸念を抱いていることが読み取れる。また、「人権問題に関すること」については堺キャンパスが、「防災に関すること」は高槻ミュージズキャンパスの割合が他のキャンパスと比較して高く、人間健康学部は福祉、社会安全学部は防災といった学部の学びを反映した結果ではないかと推測する。

各種啓発行事への興味

問 8

学内で行う各種啓発行事に関して、あなたはどのような啓発行事（イベント）であれば、その啓発内容に興味を持つかと思いますか。（複数選択可）



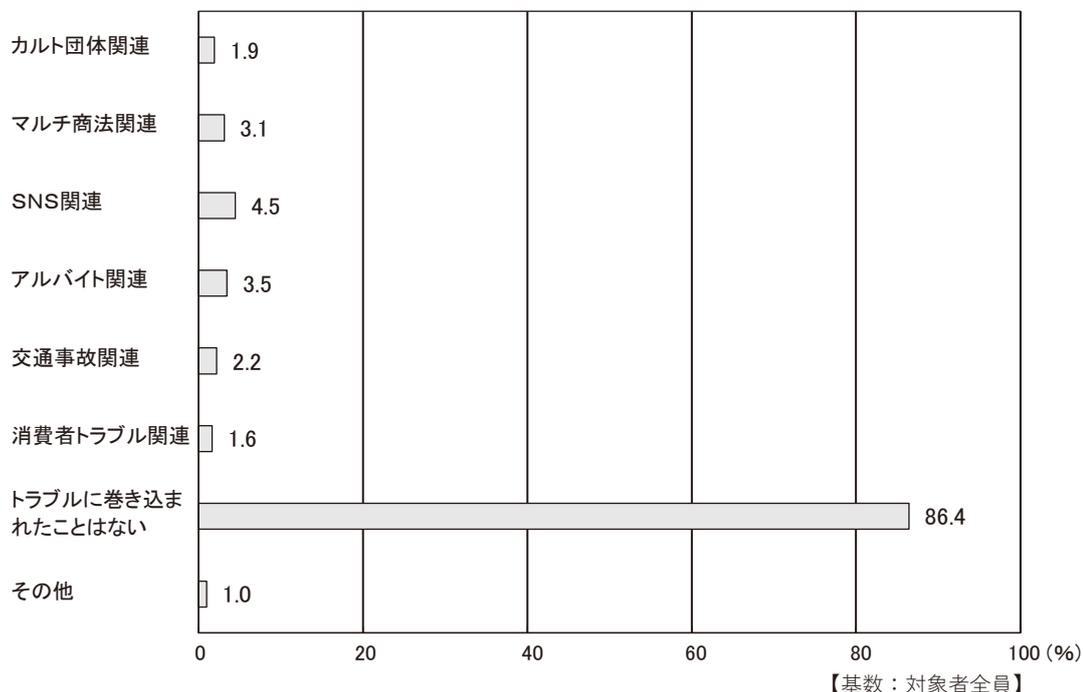
正課教育を活用した「授業やゼミでの啓発」が最も関心が高い

興味を持てる啓発行事（イベント）について調査したところ、「授業やゼミでの啓発」が45.1%と最も高く、次いで「著名人を招いた講演会」が33.6%となり、授業やゼミといった正課教育を活用した啓発行事や影響力のある著名人による講演が学生に対して各種啓発を行う方法として効果的であることがわかった。

また、学生センターが定期的実施している「ティッシュ等の啓発グッズをセットしたピラの配布」は25.5%と3番目に高い割合となり、現状の啓発行事についても、一定の効果があることが推測できる結果となった。

大学生生活におけるトラブル

問9 あなたは大学生生活でどのようなトラブルに巻き込まれたことがありますか。(複数選択可)



その他（自由記述）

- ・友人がカルト団体関連のトラブルに巻き込まれた。
- ・入学時にキャンパス外で知らない人に声をかけられた。
- ・サークル内のLINEで不快な動画が拡散されていた
- ・ストーカー
- ・盗難
- ・通学中の痴漢
- ・隣人トラブル
- ・騒音問題

トラブルに巻き込まれる学生が増加傾向に

大学生生活で巻き込まれたことのあるトラブルについて、「SNS関連」と回答した学生の割合（4.5%）は前回調査（2020年度）と比較して3.0ポイント増加し、トラブルの中で最も高い割合となった。

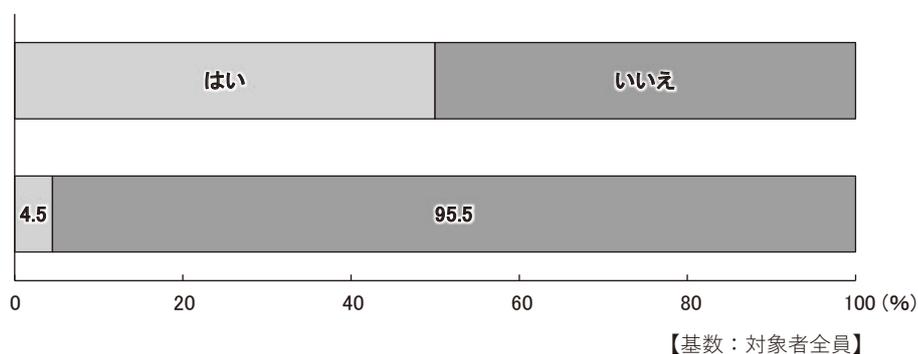
また、わずかながらも「その他」を除くすべてのトラブル項目が前回調査（2020年度）の割合を上回っており、トラブルに巻き込まれたことのある学生が増加傾向にあることが見て取れる。

「その他」の回答の中には「隣人トラブル」「入学時にキャンパス外で知らない人に声をかけられた」などの様々なトラブルがあげられた。

各種トラブルは大学生生活に大きな支障をきたす可能性が高く、本学学生が安心安全な大学生生活を過ごせるように、大学として様々なトラブルに対する情報提供等の啓発をさらに強化していく必要があることがわかった。

喫煙状況

問10 あなたは、たばこ（加熱式たばこ含む）を吸いますか。

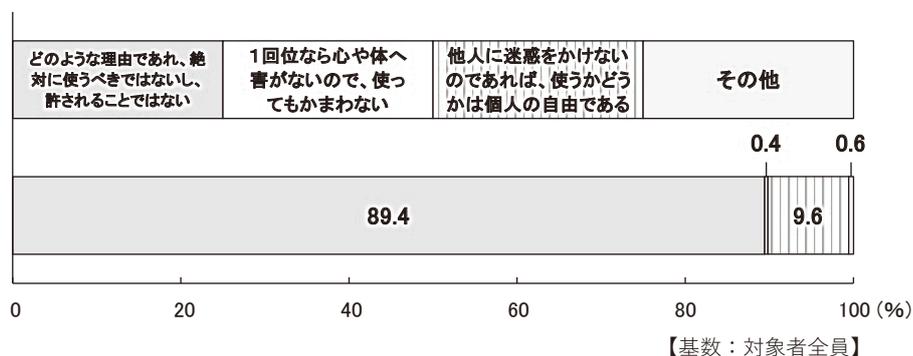


95%以上の学生が非喫煙者

「たばこ（加熱式たばこ含む）を吸いますか」という問いに対して、「はい」と回答した学生の割合は4.5%、「いいえ」と回答した学生の割合は95.5%であった。前回調査（2020年度）と比較すると、「はい」と回答した学生の割合は3.4%から1.1ポイント増加したが、約95%以上の学生が「いいえ」と回答しており、依然として本学の喫煙率は低い割合となった。

薬物使用に関する意識

問11 あなたは、違法薬物、危険ドラッグを使うことについてどのように考えていますか。



その他（自由記述）

- ・法律で禁止されているのだから、吸うべきではない。
- ・自分は使わないため、他人の使用については関心が無い。
- ・薬物は使用すべきではないが、使用した人も被害者であると思う。
- ・日本国内での使用はやめてほしい。
- ・使用している人がいるとすれば、使用に至った経緯を考えるべきであると思う。
- ・法律による規制がなければ、薬物の使用は個人の自由であると思う。

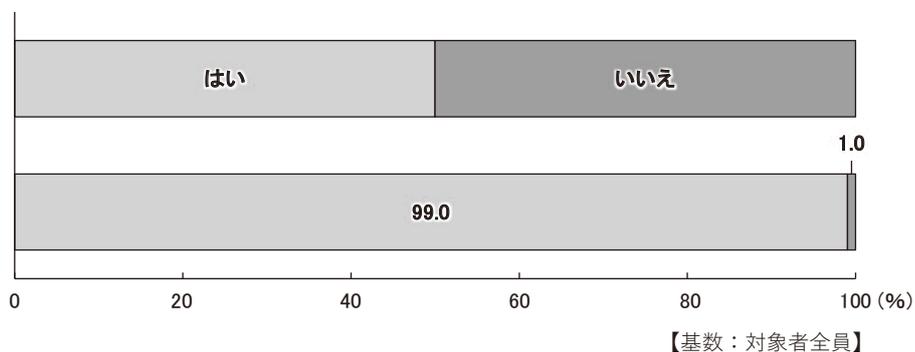
約1割の学生が薬物の使用を「個人の自由」と考えている

違法薬物、危険ドラッグを使うことに対する考えを調査したところ、「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」と回答した学生の割合が89.4%となった。

一方で、「他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である」と回答した学生の割合は9.6%となった。「その他（自由記述）」においても、法律による規制がなければ、薬物の使用は個人の自由であるという、薬物が人体に及ぼす影響を軽視しているような記述があり、薬物に対する危機意識の低い学生が僅かながら存在することがうかがえる結果となった。

成年年齢の引き下げ

問12 あなたは、2022年4月から成年年齢が18歳になったことを知っていますか。



99.0%の学生が、成年年齢が18歳になったことを知っている

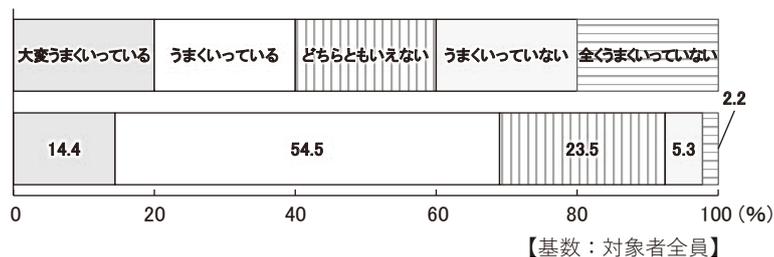
「2022年4月から成年年齢が18歳になったことを知っていますか」という問いに対して、「はい」と回答した学生の割合は99.0%であり、ほとんどの学生が成年年齢の引き下げについて知っていることがわかった。

また、学年別に見ると、1年次生で「はい」と回答した割合が99.8%となっており、上位年次生と比べて把握している学生の割合が最も高い結果となった。

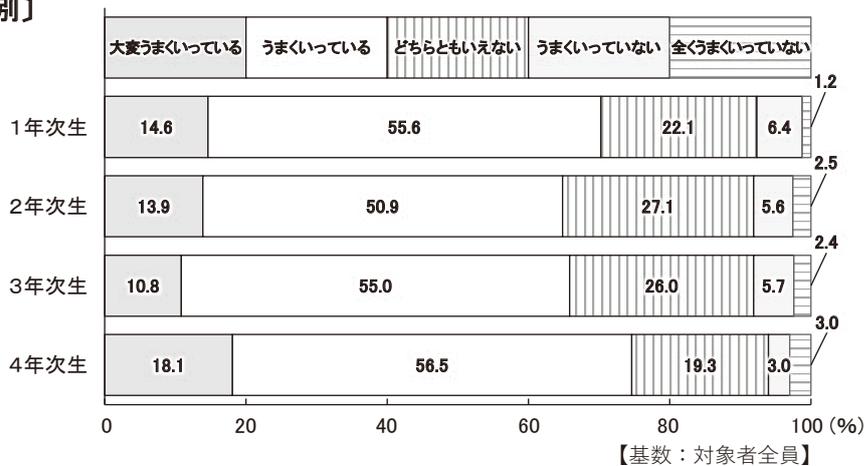
対人関係

問13 あなたは自身の対人関係についてどう感じていますか。

〔全体〕



〔学年別〕



全体の約7割の学生がうまくいっていると回答

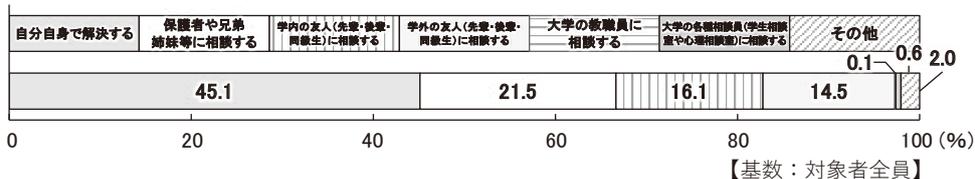
対人関係について、「大変うまくいっている」「うまくいっている」と回答した学生の割合は全体で68.9%となった。また、学年別に見てみると、「大変うまくいっている」「うまくいっている」と回答した1年次生は70.2%となった。

さらに、充実度別にクロス集計表を見てみると、「大変うまくいっている」と回答した学生のうち、88.4%が「大変充実している」と回答していることから、学生生活を充実させる上で対人関係が重要であることがわかった。

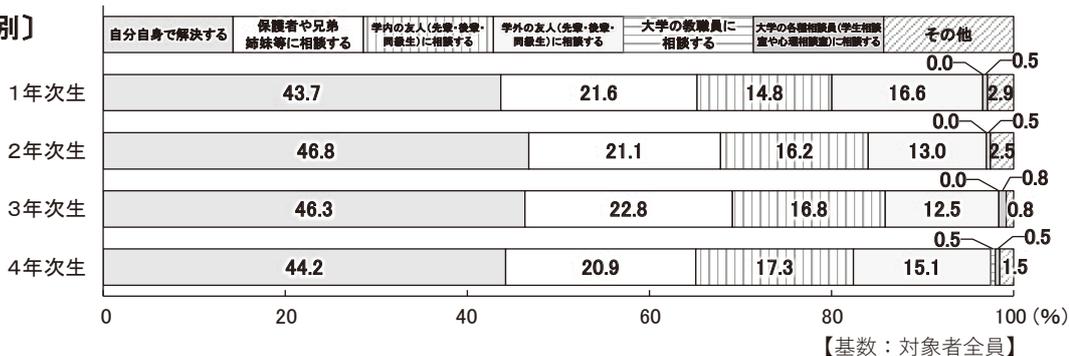
不安や悩みの解決方法

問14 不安や悩みをどのように解決しますか。最も用いる解決方法を選択してください。

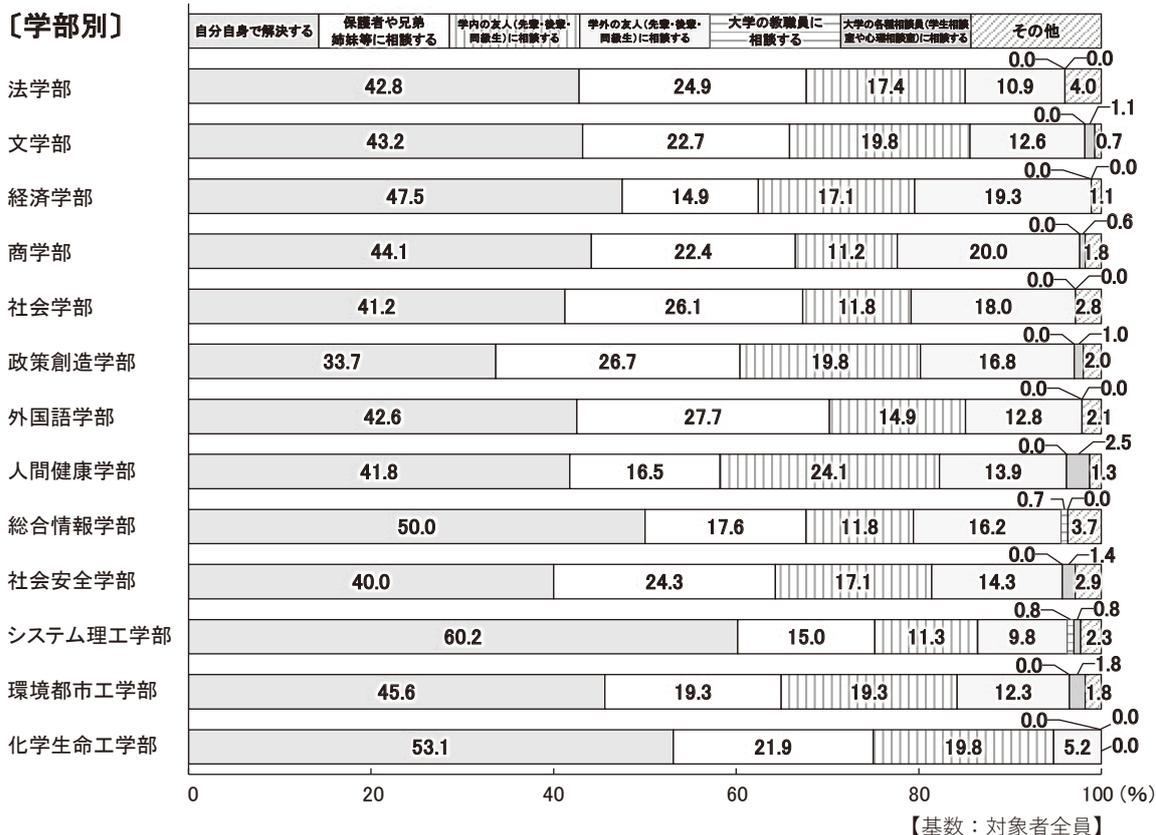
〔全体〕



〔学年別〕



〔学部別〕



5割以上の学生が家族や友人に相談すると回答

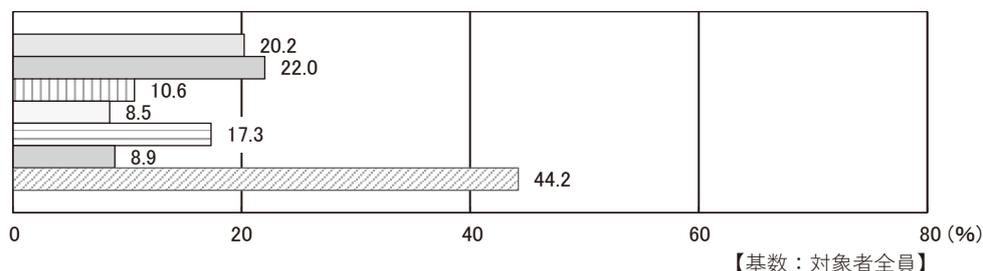
「保護者や兄弟姉妹等に相談する」「学内の友人（先輩・後輩・同級生）に相談する」「学外の友人（先輩・後輩・同級生）に相談する」と回答した学生の割合は52.1%であったことから、全体の5割以上の学生が、不安や悩みの解決方法として家族や友人に相談することがわかった。

また、「自分自身で解決する」と回答した学生の割合について学部別に見てみると、システム理工学部が60.2%と最も高く、次いで化学生命工学部が53.1%となった。

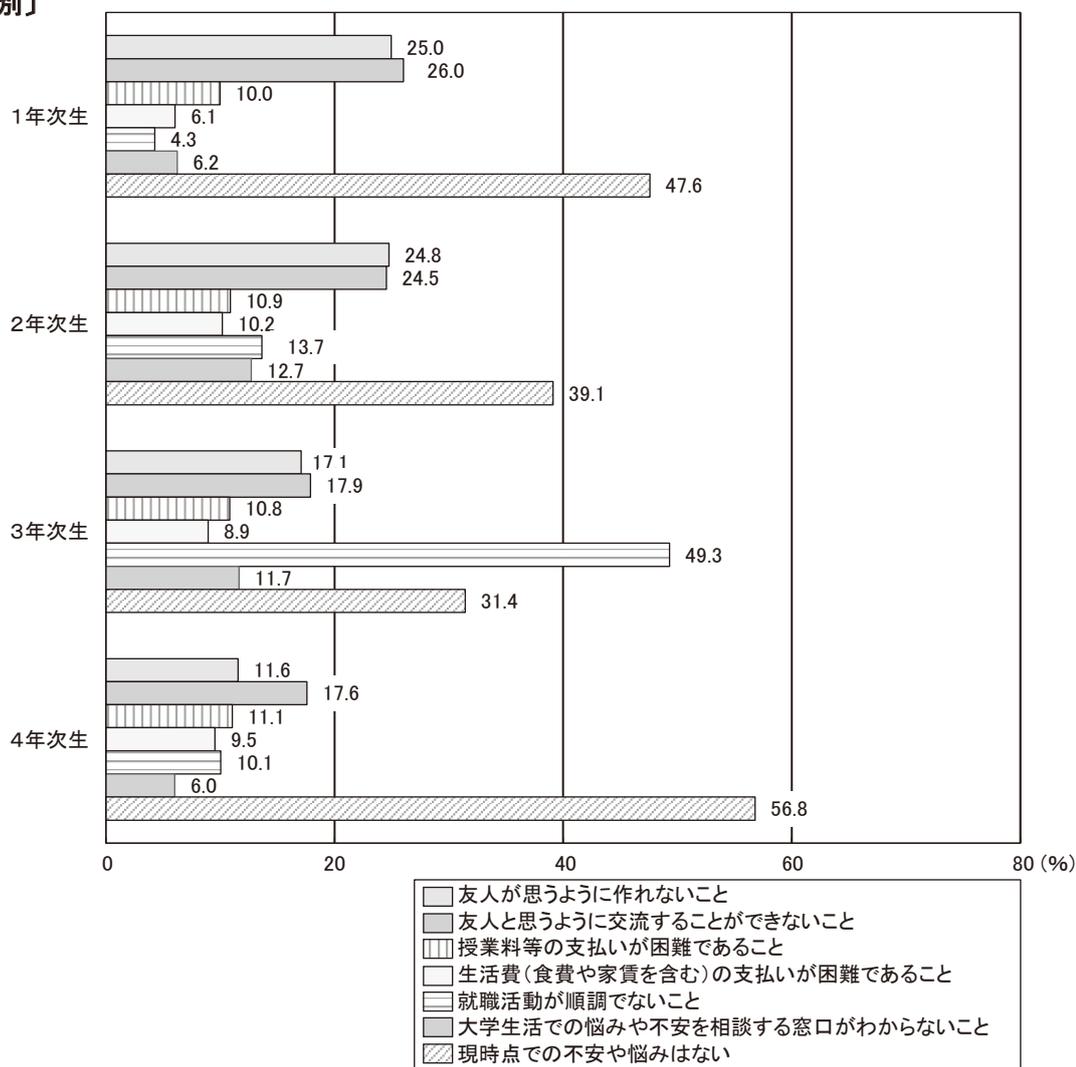
修学面以外での悩み

問15 修学面以外で不安や悩みはありますか。(複数選択可)

〔全体〕



〔学年別〕



「現時点での不安や悩みはない」と回答した学生が4割以上

修学面以外での不安や悩みについて調査を行ったところ、「現時点での不安や悩みはない」と回答した学生の割合が44.2%と最も高く、次いで「友人と思うように交流することができないこと」が22.0%、「友人が思うように作れないこと」が20.2%という結果となった。

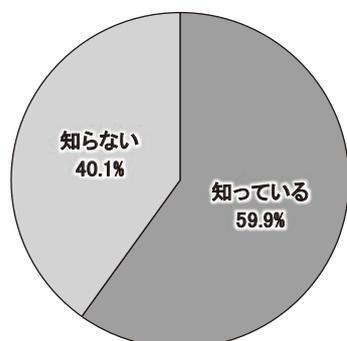
「友人が思うように作れないこと」と「友人と思うように交流することができないこと」について、学年別でみると、上位年次になるにつれて低い割合となり、友人作りに関する悩みが年次進行とともに解消されていくことが読み取れる結果となった。また、「就職活動が順調でないこと」については、就職活動が本格化する3年次生の割合が他の学年と比較して突出して高く、就職活動を行う学生の不安や悩みが顕著に表れる結果となった。

給付奨学金の認知度

問16

あなたは「関西大学」が実施している返還義務のない給付奨学金制度を知っていますか。
(例：学の実化入学前予約採用型給付奨学金、新入生給付奨学金、学部給付奨学金、植田奨励金etc)

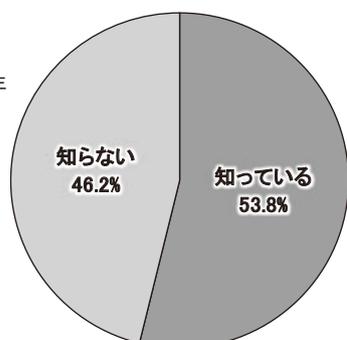
〔全体〕



【基数：対象者全員】

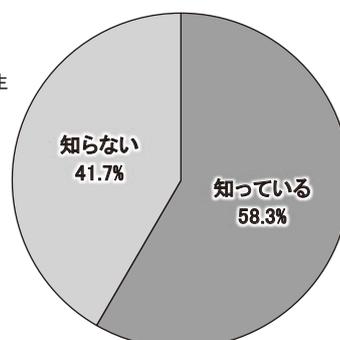
〔学年別〕

1年次生



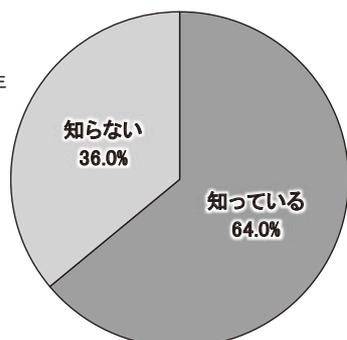
【基数：対象者全員】

2年次生



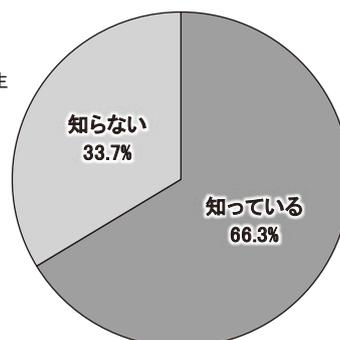
【基数：対象者全員】

3年次生



【基数：対象者全員】

4年次生



【基数：対象者全員】

約6割の学生が給付奨学金制度を「知っている」と回答

本学独自で実施している給付奨学金について、「知っている」と回答した学生の割合が59.9%と、半数以上の学生が認知している結果となった。

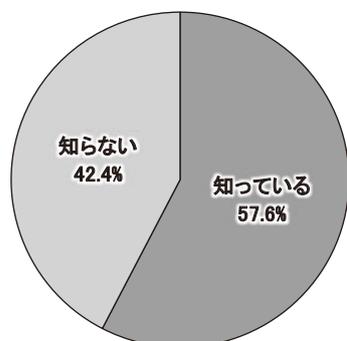
また、学年別の結果を見ると、学年が上がるに連れて認知度が高くなっていることから、下位年次生や入学前の進学希望者に重点を置いた周知方法を検討する必要があると思われる。

給付奨学金の認知度

問17

あなたは「国」が実施している返還義務のない修学支援新制度（授業料減免と給付奨学金がセットの制度）を知っていますか。

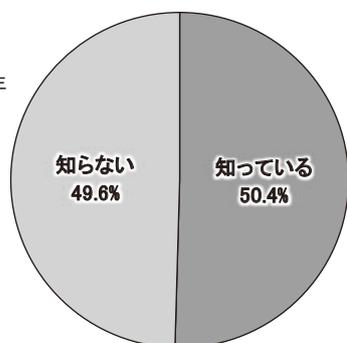
〔全体〕



【基数：対象者全員】

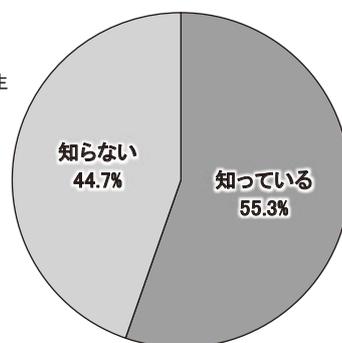
〔学年別〕

1年次生



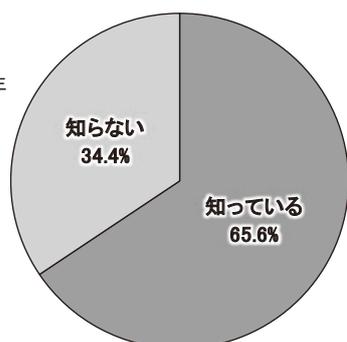
【基数：対象者全員】

2年次生



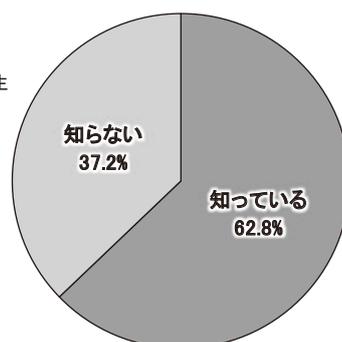
【基数：対象者全員】

3年次生



【基数：対象者全員】

4年次生



【基数：対象者全員】

5割以上の学生が国の修学支援新制度を「知っている」と回答

2020年度の導入から3年目となる高等教育の修学支援新制度の認知度は57.6%という結果となった。

学年別にみると最も認知度が高かったのは、2020年度に入学した3年次生の65.6%であり、制度開始初年度の入学生であったということから、比較的多くの学生が関心を持っていたことが伺える。

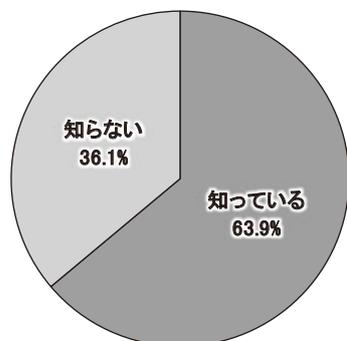
一方で、1年次生の認知度が50.4%と最も低いことから、入学前の進学希望者や1年次生に対する周知の改善を図る余地があることが分かった。

貸与奨学金の認知度

問18

あなたは「日本学生支援機構（JASSO）」が実施している返還義務のある貸与奨学金制度を知っていますか。
（例：第一種奨学金、第二種奨学金、海外留学のための貸与奨学金）

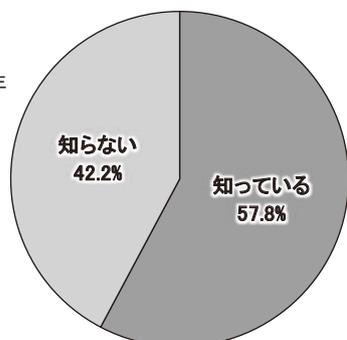
〔全体〕



【基数：対象者全員】

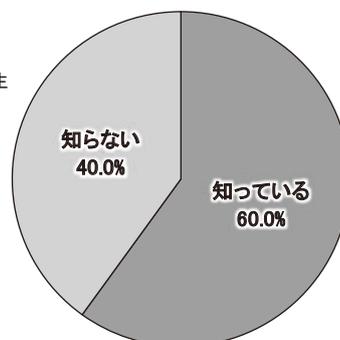
〔学年別〕

1年次生



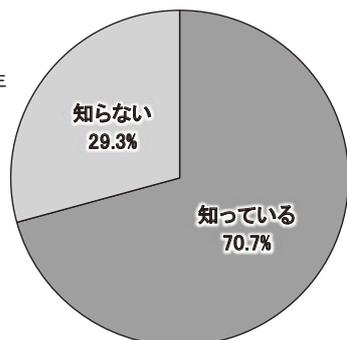
【基数：対象者全員】

2年次生



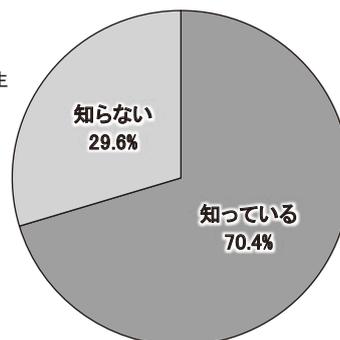
【基数：対象者全員】

3年次生



【基数：対象者全員】

4年次生



【基数：対象者全員】

各学年とも貸与奨学金の認知度は給付よりも高い結果となった

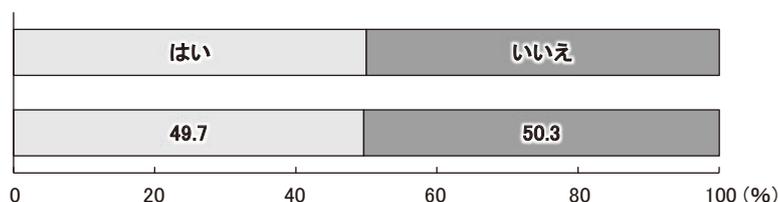
貸与奨学金については、全体で63.9%の学生が知っていると回答しており、問17の給付奨学金の学年別の認知度と比較して5～8ポイントほど高い結果となった。

貸与型の採用基準は給付型ほど厳しくないため、申請する学生数も多い傾向にあることから、学生の関心が高いものと思われる。

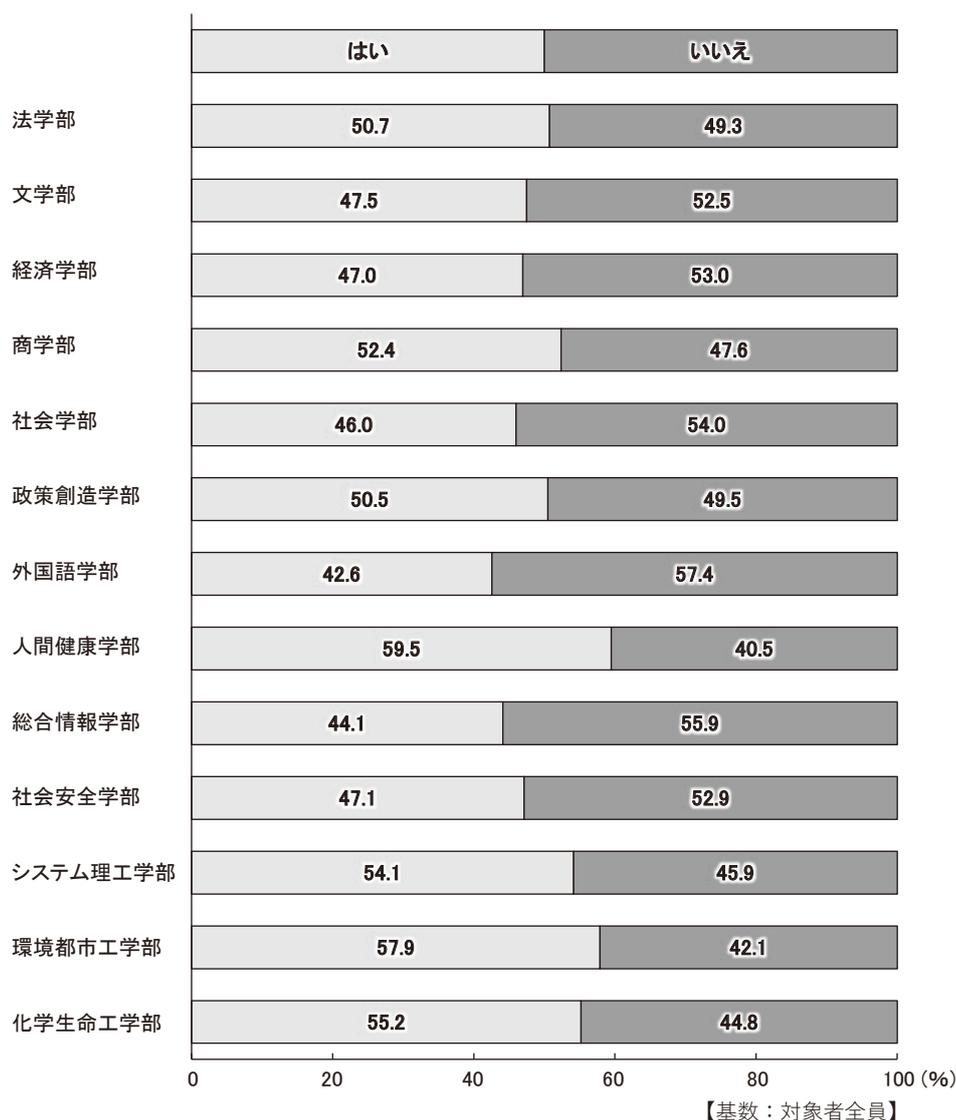
奨学金の受給状況

問19 現在、関西大学や国・日本学生支援機構及び財団等の奨学金を利用していますか。

〔全体〕



〔学部別〕



半数の学生が何らかの奨学金を利用していると回答

関西大学や国・日本学生支援機構及び財団等の奨学金を「利用している」と回答した学生の割合は全体で49.7%と、ほぼ半数の学生が何らかの奨学金を利用している結果となった。学部別に見ると最も割合が高い学部は人間健康学部で59.5%、最も低い学部は外国語学部で42.6%という結果であり、16.9%ポイントの差があることが分かった。

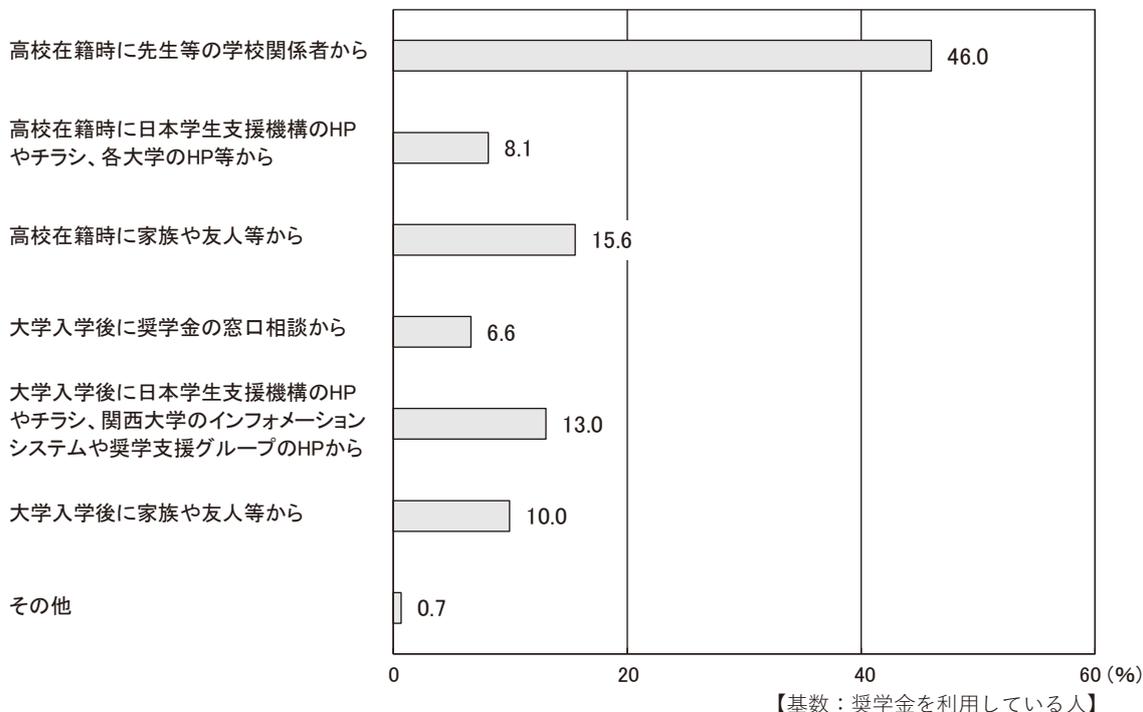
また、理工系の3学部はいずれも50%を超える割合の学生が利用している結果となった。

奨学金制度に関する情報について

問20

問19「現在、関西大学や国・日本学生支援機構及び財団等の奨学金を利用していますか。」で「はい」と回答した方にお尋ねします。

奨学金に関する情報をどこで入手しましたか。



その他（自由記述）

- ・わからない
- ・関西大学学部給付奨学金の内定をもらった
- ・大学の合格通知
- ・入学前に親から
- ・編入学の書類から

約7割の学生が高校在籍時に奨学金情報を得ている

奨学金に関する情報は、「高校在籍時に先生等の学校関係者から」得ている学生が46.0%と、その他の回答と比較しても圧倒的に高い割合となった。他にも、「高校在籍時に家族や友人等から」が15.6%、「高校在籍時に日本学生支援機構のHPやチラシ、各大学のHP等から」が8.1%となり、合計すると69.7%が高校在籍時の段階で奨学金の情報を得ていることが確認できた。

引き続き、関連部署と連携を取り、高校の学校関係者等への奨学金制度に関する正確な情報提供を行っていくとともに、入学後の情報提供にも注力する必要があることがわかった。

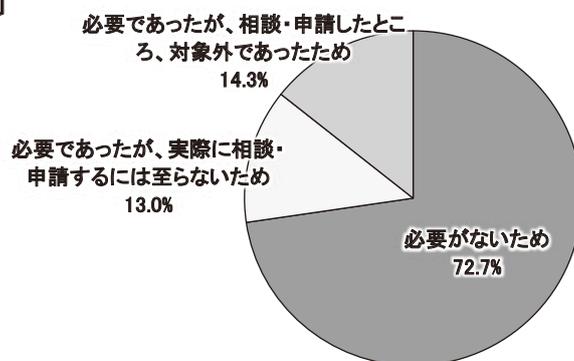
奨学金制度を利用しなかった理由

問21

問19「現在、関西大学や国・日本学生支援機構及び財団等の奨学金を利用していますか。」で「いいえ」を回答した方にお尋ねします。

「いいえ」と回答した理由をお答えください。

〔全体〕



【基数：奨学金を利用していない人】

約3割の学生が奨学金を必要としているものの、利用できていない状況

奨学金を「利用していない」と回答した学生のうち、「必要がないため」と回答した学生の割合が72.7%と最も高く、次いで「必要であったが、相談・申請したところ、対象外であったため」が14.3%となった。

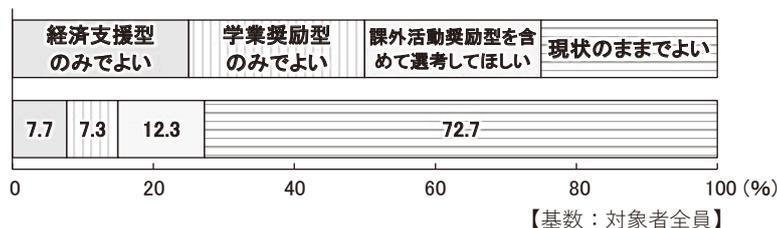
また、「必要であったが、実際に相談・申請するには至らないため」が13.0%となり、各自で奨学金の採用基準等を確認し、基準を満たしていないと判断している状況が読み取れる。生計維持者の失業等、家計が急変するような特別な事情がある場合には採用基準が緩和される奨学金制度もあるため、一度、奨学金の窓口まで相談していただきたい。

奨学金制度について

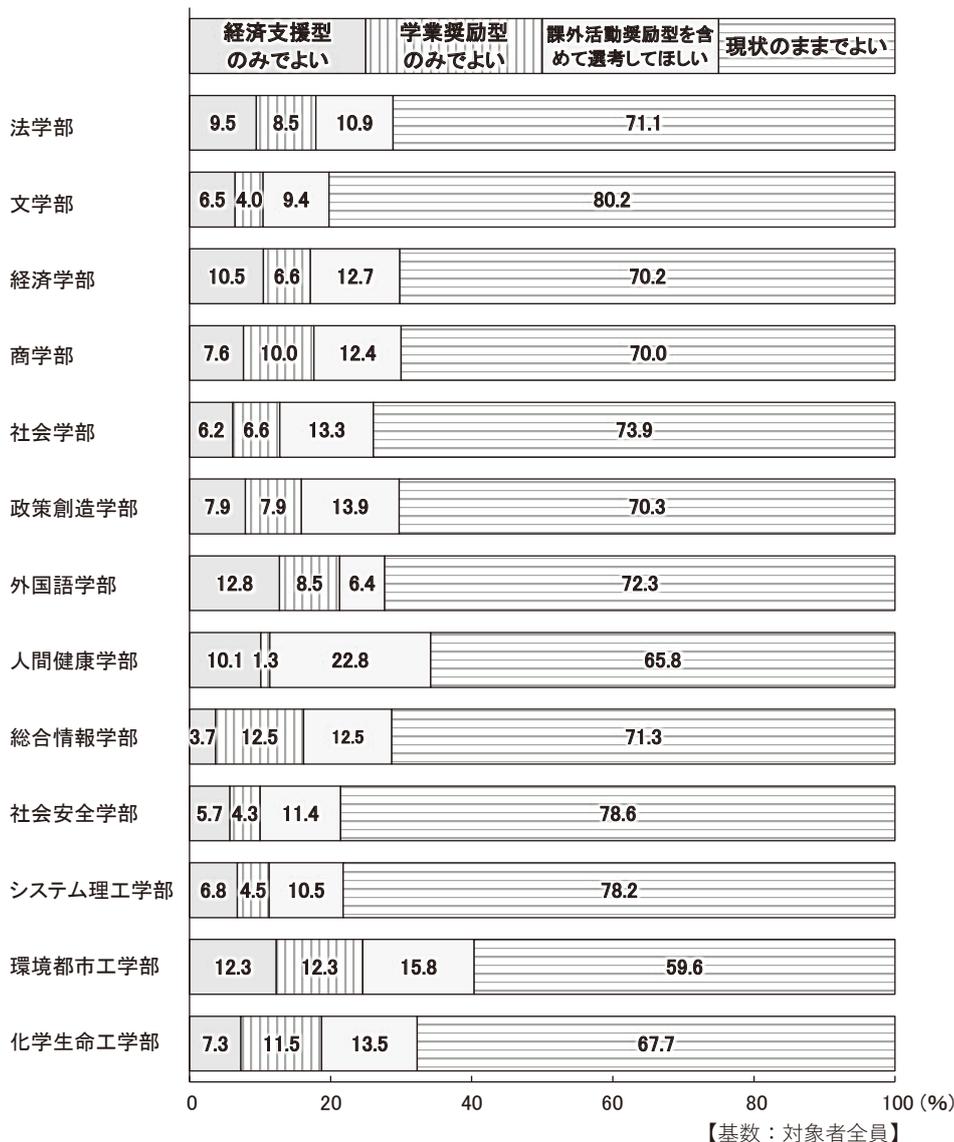
問22

現在、関西大学では経済支援型と学業奨励型を両立させることを目的とした奨学金制度を設けていますが、奨学金制度についてどのように感じていますか。

〔全体〕



〔学部別〕



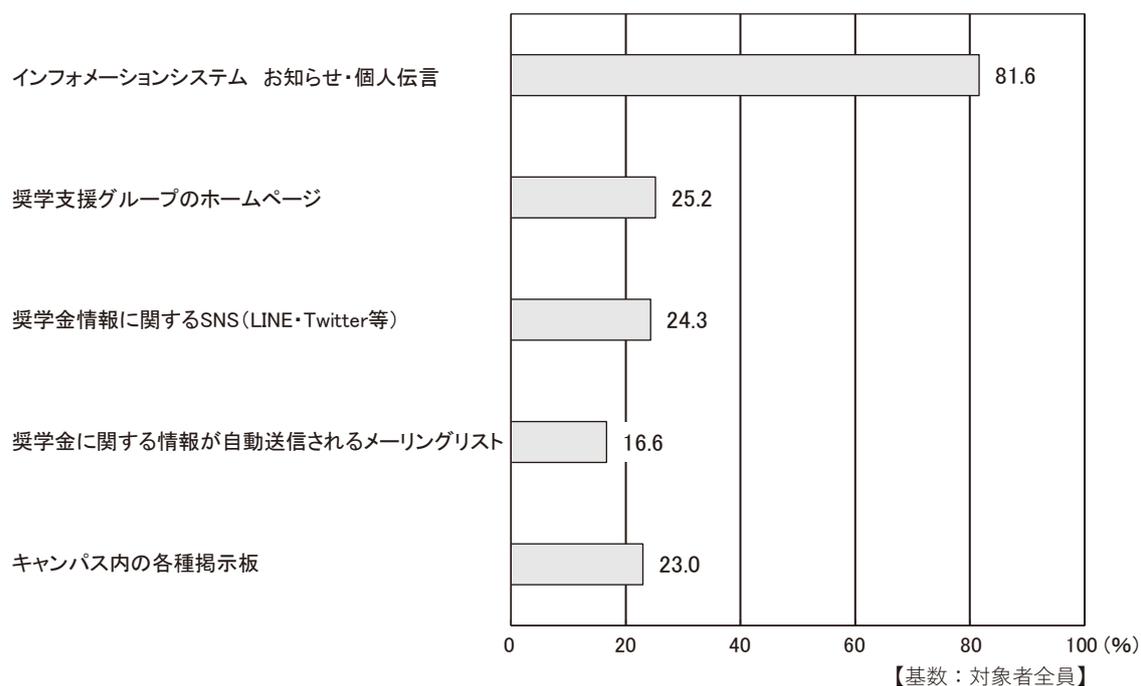
奨学金制度について「現状のままでよい」が7割以上

72.7%の学生が本学の奨学金制度を「現状のままでよい」と回答しており、7割以上の学生が現行の奨学金制度に納得していることが読み取れる。本学の「経済支援型」「学業奨励型」を両立している奨学金制度が、多くの学生に支持されていると言える。

一方で27.3%の学生は現行の制度以外を希望している。特に「課外活動奨励型を含めて選考してほしい」を選択している学生が12.3%を占めていることから、課外活動支援に特化した奨学金制度の拡充も検討する必要がある。また、「経済支援型のみでよい」「学業奨励型のみでよい」と回答する学生もいることより、こちらについても方向性を考慮する余地があると思われる。

奨学金制度に関する情報について

問23 あなたが奨学金の情報を入手するために、どのような情報ツールが効果的だと考えますか（複数選択可）



「インフォメーションシステムお知らせ・個人伝言」が効果的

学生が奨学金の情報を入手する手段として効果的だと考える媒体は、「インフォメーションシステムお知らせ・個人伝言」が81.6%と最も多い回答となった。次に「奨学支援グループのホームページ」が25.2%、「奨学金情報に関するSNS (LINE・Twitter等)」が24.3%という結果となった。

また、「キャンパス内の各種掲示版」と回答する学生も23.0%おり、ペーパーレス化を推進している中ではあるが、一定の効果が期待できるため、掲示する場所を選定しつつ、引き続き活用していきたい。

上記結果から、お知らせや個人伝言のような既存の情報媒体がこれまでと同様に支持されており、これに加えて、ホームページやSNS、掲示版を複合的に活用して情報を提供する必要があることがわかった。



関西大学